

# 特別上映会 わたしの、終わらない旅

坂田雅子監督作品

日時:2018年11月17日(土) 会場:日比谷図書文化館 地下大ホール



母の遺した一冊の本。  
それが私を  
旅へといざなった。

フランス、マーシャル諸島、カザフスタン、そして福島———。

核に翻弄される人々を訪ね、兵器と原発という二面性をもつ

核エネルギーの本質を探る。

製作・監督・撮影・編集：坂田雅子

プロデューサー：山上徹二郎／編集：大重裕二／整音：小川 武／製作協力・配給：株式会社シグロ 78分

## ■プログラム [開場:13:00 開演:13:30]

第一部 13:30~15:00 「わたしの、終わらない旅」上映会

第二部 15:15~16:30 トークセッション

坂田雅子(映画監督)

上遠恵子(レイチェル・カーソン日本協会会長)



■参加費:¥1,000

■主催:レイチェル・カーソン日本協会 関東フォーラム

## 🎬🎬🎬 作品紹介

母が遺した一冊の本。「聞いてください」と題されたそれは、母が1977年から続けていた原発を問うミニコミ紙をまとめたものだった。福島第一原発の事故後、今は亡き母が記した数十年前から続けていた反原発運動の意味に改めて気づいた坂田監督は、核エネルギーの歴史を辿る旅に出る。フランスの核再処理施設の対岸の島に暮らす姉を訪ね、大規模な核実験が繰り返し行われたマーシャル諸島で故郷を追われた島の人々に出会い、そしてカザフスタンでは旧ソ連による核実験で汚染された大地で生きる人々をみつめる。「聞いてください」核に翻弄された人々の声なき声を、『花はどこへいった』『沈黙の春を生きて』で世代を超えた枯れ葉剤の被害を描いてきた坂田雅子監督による渾身のドキュメンタリー。

## 📖 「聞いてください」 坂田静子 著

30年以上前、原発の危険に警鐘を鳴らし、原発神話の嘘に挑んだ主婦がいた。信州の地方都市で反原発を叫び続けた著者は、多くの人にその危険を知ってもらおうと、ガリ版で『聞いてください』という新聞を発行し続けた。当時の新聞を復刻した脱原発への祈りの書。



## ■坂田雅子監督・プロフィール

ドキュメンタリー映画監督。1948年、長野県生まれ。2003年、夫のグレッグ・デイビスの死をきっかけに枯葉剤についての映画製作を決意し、ベトナムと米国で、枯葉剤の被害者やその家族、ベトナム帰還兵、科学者等にインタビュー取材を行う。2007年、『花はどこへいった』を完成させる。本作は毎日ドキュメンタリー賞、パリ国際環境映画祭特別賞、アースビジョン審査員賞などを受賞。2011年、NHKのETV特集「枯葉剤の傷痕を見つめて～アメリカ・ベトナム 次世代からの問いかけ」を制作し、ギャラクシー賞、他を受賞。同年2作目となる「沈黙の春を生きて」を発表。仏・ヴァレンシエンヌ映画祭にて批評家賞、観客賞をダブル受賞したほか、文化庁映画賞・文化記録映画部門優秀賞にも選出された。2014年、「核」と人類の歩みを描いた『わたしの、終わらない旅』を製作。2017年にはベトナム大使館より友好勲章が授与された。今秋、脱原発を宣言したドイツの歴史的背景を、市民運動の観点から描く『モルゲン、明日』を公開予定。



## 新作のお知らせ

2018年10月6日(土)公開 待望の新作映画!  
『モルゲン、明日』

🎬 あらすじ 福島第一原発の事故から3ヶ月後の2011年6月、ドイツは2022年までにすべての原発を廃炉にすることを決めた。一方、当事国の日本では事故収束に対する糸口も見えないまま再稼働が始まっている。両国の違いはどこからくるのだろう。脱原発と自然エネルギーへの転換に情熱を燃やし、実践するドイツ市民の戦後の奇跡を辿る。

10月6日(土)よりシネマハウス大塚ほか全国順次公開。詳細は下記URLをご覧ください。

<http://www.masakosakata.com/>

## ◆日比谷図書文化館へのアクセス

東京メトロ 丸の内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」B2出口より徒歩約3分

都営地下鉄 三田線「内幸町駅」A7出口より徒歩約3分

JR 新橋駅 日比谷口より 徒歩約10分

## ●申し込み先

TEL & FAX : 04-7184-5795 (島藤)

メール : [5995xj@bma.biglobe.ne.jp](mailto:5995xj@bma.biglobe.ne.jp)

※お名前、連絡先、参加人数をご連絡下さい。

申込締切 : 11月10日

